

交際相手・元交際相手からのつきまとい行為

竹 澤 みどり
(保健管理センター)

多くの人が、“ストーカー”という言葉を目にした事があると思います。平成12年に「ストーカー行為等の規制等に関する法律（ストーカー規制法）」が施行され、話題になりました。この法律による規制の対象が“つきまとい等”、“ストーカー行為”です。近年、ニュースで取り上げられることも増えています。しかし、言葉として知ってはいても、どのような行為なのか、その行為がどれくらいの影響力を持つのかはあまり知られてはいないのではないのでしょうか？今後、自分がつきまとわれ、とても怖い思いをし、その結果、自分の行動を制限せざるを得なくなってしまう事があるかもしれません。また、自分が知らないうちにつきまとい行為やストーカー行為をしてしまっているかもしれません。さらに、周囲にそのような被害に苦しんでいる人がいるかもしれません。自分が被害者や加害者にならないために、また被害に苦しんでいる人をさらに傷つけてしまわないために、少しでも多くの人に知ってもらいたいと思っています。

誰からつきまとわれる？

つきまとい行為やストーカー行為をするのは“知らない誰か”と思っている人も多いかもしれません。しかし、面識のない知らない人からつきまとわれることは比較少ないのが現状です。警視庁の報告（「平成23年中のストーカー事案及び配偶者からの暴力事案の対応状況について」）によれば、行為者で一番多いのは交際相手（元交際相手を含む）53%、次は知人友人10.9%、次は配偶者8.7%であり、行為者と面識がない場合は5.5%と少ない事が報告されています。多くの場合、自分が交際している相手や別れてしまっている元交際相手からつきまとい行為やストーカー行為をされているのが現状です。

つきまとい・ストーカー行為とは？

「つきまとい等」とは、ストーカー規制法では、特定の者に対する恋愛感情その他の好意感情又はそれが満たされなかったことに対する怨恨の感情を充足する目的で、その特定の者又はその家族等に対して行う以下の8つの行為を「つきまとい等」と規定し、規制しています。

- 1 つきまとい・待ち伏せ・押しかけ
 - ・あなたを尾行し、つきまとう
 - ・通勤途中などあなたの行動先で待ち伏せする
 - ・あなたの進路に立ちふさがる
 - ・あなたの自宅や職場、学校等の付近で見張りをしている
 - ・あなたの自宅や職場、学校等に押しかける

2 監視していると告げる行為

- ・その日の服の色やどのような行動をしたかなどをあなたに告げ、監視している事を気づかせる
- ・帰宅した直後に「おかえりなさい」などと電話する
- ・あなたがよくアクセスするインターネット上の掲示板に、上記の内容の書き込みを行う

3 面会・交際の要求

- ・あなたが拒否しているにもかかわらず、面会や交際、復縁を求める
- ・贈り物を受け取るようにあなたに要求する

4 乱暴な言動

- ・あなたに、大声で「バカヤロー」などの粗野な言葉をあびせる
- ・あなたの家の前で大声を出したり、車のクラクションを鳴らしたりするなど乱暴な行動をする

5 無言電話、連続した電話、ファクシミリ

- ・電話をかけてくるが、何も告げず、あなたに不安を感じさせる
- ・あなたが拒否しているにもかかわらず、携帯電話や会社、自宅に何度も電話をかけてくる
- ・あなたが拒否しているにもかかわらず、何度もファクシミリを送信してくる

6 汚物などの送付

- ・汚物や動物の死体など、あなたに不快感や嫌悪感を与えるものを自宅や職場に送りつける

7 名誉を傷つける

- ・あなたを中傷したり名誉を傷つけるような内容を告げたり文書等を届ける

8 性的しゅう恥心の侵害

- ・わいせつな写真などを、自宅に送りつけたり、インターネット掲示板に掲載する
- ・電話や手紙で、卑猥な言葉を告げ辱めようとする
- ・望んでもいないのに性的に恥ずかしいと思う気持ちを起こさせて精神の平穏を害する（「わいせつ」まで至らないものも含まれる）

ストーカー行為とは、同一の者に対し、上記のような「つきまとい等」を繰り返して行うことを「ストーカー行為」と規定されています。

(警視庁のHPより)

警視庁の報告（「平成23年中のストーカー事案及び配偶者からの暴力事案の対応状況について」）よれば、つきまとい・待ち伏せ等が30.3%と最も被害の発生が多く、次いで面会・交際の要求29.6%、続いて無言電話・連続電話が16.4%でした。

近年、インターネットや携帯電話をはじめとする情報通信技術（ICT: Information and Communication Technology）は若者の間に広く浸透し、多くの人々が他者とのコミュニケーション手段として活用しています。これらの技術は、便利で人間関係を広める可能性を秘めている半面、容易につきまとい行為を行いやすい状況を作り出していると言えます。携帯の発着信/メール送受信履歴、SNS 上の書き込みや他者とのやり取りなどを見ることで、恋人の1日の行動や人との関わりを知ることができるなど、容易に行動を知り、監視することができてしまいます。また、どんな時にも様々な形のメッセージを送ることが容易になり、いつでも相手を威嚇したり、精神的に傷つけ、追い詰めてしまうことが可能になってしまいます。今日、このような ICT を用いたつきまとい行為が容易に起こりやすく、さらに広まっています。

被害者への影響

軽度の関係侵害（つきまとい行為）だから深刻ではないという風に、被害の程度、その影響力を軽く思ってしまうことも多いかもしれません。顔見知りの人であっても、あるいは明白な身体的脅威がなくても、その影響力は深刻です。被害者には、軽度の関係侵害（つきまとい行為）でも、困惑、混乱、ストレス、不安、抑うつ、恐怖、ショック、自己非難、人に対する信頼感の喪失などの様々な反応が生じます（スピッツバーグ&キューバック、2008）。その結果、日常生活の維持、仕事を続ける、学校に通う等に支障が出る場合も多いです。しかし、このような影響力の大きさを知らない人からすると、「それほど何事？具体的に何もされてないでしょ？」「あなたも悪いんじゃない？」「気にしないで、ちゃんとやる事をやるべきではないか？」と容易に考えてしまうかもしれません。実際、同様の事を周囲から言われ、さらなる苦しみを抱えてしまうケースも多いのが現状です。

被害を受けたら

このような被害を受けにくくする対策があります。詳しくは、警視庁のHPに載っています。ぜひ一度、見ていただきたいなと思います。しかし、注意をしてもこのような被害にあってしまうこともあります。もし、このようなつきまとい行為をされて辛い思いをしていたら、一人で悩まず、できるだけ早く信頼できる友人や大人に相談してください。また、ぜひ保健管理センターに相談してください。自分のされている事が相談するほどの事なのか、大したことではないのではないのかと思い、我慢し続け、相談に至るまでに時間がかかってしまうことも多いです。辛い、苦しい状況が続いているときには、できるだけ早く相談に来てもらえればと思っています。

引用文献

B.H. スピッツバーグ・W.R. キューバック（編）谷口弘一・加藤司（監訳） 親密な関係のダークサイド 北大路書房

